

松陰神社は、萩郊外の松本という村の、杉家の元の土地にある。吉田松陰（幼名を杉虎之助、1830 年生）はここで 1830 年に生まれ、1859 年に死刑が執行されるまでここで育ち、定期的に教えていた。

1890 年、松陰が教えた松下村塾は再建され、近くに小さな記念碑が建てられた。17 年後の 1907 年には、首相に 4 回就任した伊藤博文（1841-1909）と外交官で官僚でもあった野村靖（1842-1909）の 2 人が、かつて自分たちが教えを受けた塾の後ろに師の記念碑として松陰神社を建てた。

1936 年から 1940 年にかけて、新しい神社を建てるために寄付金が日本全国から届いた。第二次世界大戦中は建設が停滞したが、新しい銅屋根の神社は 1955 年に完成した。神社創立から 100 年目の 2007 年には屋根が付け替えられた。もとの神社は現在、松門神社と呼ばれ、松陰の門下生用に管理されている。

神社の建物が増設されるにつれて、江戸時代からの歴史的建造物を取り囲むようになった。これには二つの博物館、吉田松陰や他の明治維新の革命家の生涯を示す多くの建造物が含まれる。

道路側から松陰神社に近づく、左端に大きな石の記念碑がある。これは、1862 年に三人の革命家、現在の鹿児島県にあたる薩摩の田上藤七（日付不明）、今の高知県にあたる土佐の坂本龍馬（1836-1867）、そして山口県にあたる長州の久坂玄瑞が会合したことを記念するものだ。この会合はかつてここにあった宿で行われた。

神社の最初の鳥居を通り過ぎると、すぐ左側に明治 100 周年を記念して 1968 年に建てられ、佐藤英作（1901-1975）の言葉がきざまれた記念碑がある。佐藤は当時の首相であり、1974 年にはノーベル賞を受賞した山口県の出身者だ。

少し行くと、詩が刻まれた小さな玉石があり、これは吉田松陰が 1859 年に死刑が執行される直前に書いたもので、両親に捧げられている。

松陰神社の中心には、松下村塾と実家の杉家の古い住居がある。松下村塾は国の史跡として、ユネスコの世界遺産に「日本の明治産業革命の現場」として登録されている。杉邸はその奥にあり、江戸時代の低級武家の好例とされている。至誠館には吉田松陰に関する遺物が多く展示されている。